

釣れ釣れなるままに

2013年思い出の釣行記 PART. 8

名人に学ぶ



本日の釣果でまともなのはこの2枚だけだった

## 岩見沢釣遊会第2回大会

☆開催日	平成25年5月19日
☆開催場所	寿都港～栄浜港
☆入釣場所	ワスリ
☆釣果	クロガシラ 357 mm 2
	ホッケ 331 mm 1
	アブラコ 1
	ハチガラ 2
	ソイ 1
☆成績	合計点数 978 点 (2魚種身長+10匹重量)
	成績 13 位

### 大平川河口平盤

平成25年度第2回大会が5月19日(日)に交縁会主催として寿都港～栄浜港で開催された。今回は北海道釣名人会の金井泰樹氏、山崎 栄氏、札幌医釣会の中江政美氏をお客様としてお迎えし、総勢19名の参加者を乗せて一路寿都港へ向けて出発した。1週間前から出ていた雨模様の荒れた天気予報が急転し、当日は暖かく弱い南風、波も1.5mと絶好の釣り日和となった。

集合場所に向かうときに交通事故の現場に遭遇した。子ども用自転車が道路脇に横たわり、警察官が事情聴取しているようだったが、付近から何人もの住民が出てきて事故の大きさを物語っていた。大会の翌日の新聞では、小学2年生の男の子が自転車で道路を横断中に乗用車にはねられ、ドクターヘリで札幌の病院に運ばれたが、意識不明の重体だと伝えていた。私たち釣りは道中をバスの運転手に託すしかないが、一層の安全運転をお願いした。今回は午後7時出発と言うことで、他の釣りの到着に負けないようにとバスを急かす必要もなく、酒を片手にのんびりと釣り談義に花を咲かせながら釣り場へと向かった。

私は、釣り場を前回「とんとん会」の栄磯でのリベンジか、折川、大平川、小田西川の河口と絞り込んで、バスの中で状況を聞いて決めることにしていた。河口としたのは、1週間ほどべた凧の日が続き、今日も凧だと予報されているので、少しでも波が立ち、潮の動く河口が無難なのかなと考えたからだ。先輩方に様々な指導を受けながら、最終的には先日の「つりしん」で菅原隆氏が型モノの真ガレイやクロガシラを数釣りしたこと、金井氏が近投でも根モノがよく釣れるということで大平川河口平盤に向かうことにした。

次週の道釣連大会の下見を兼ねて鷹ノ巣トンネル裏に向かうという金井氏、山崎氏と共に大平川の駐車帯でバスから下りた。3人で歩いて行くと、最近の暖かさで出た雪白水が川原を埋め尽くしてその崖縁を進まざるを得なかった。途中で金井氏らは左奥へと進んで

行った。私は河口平盤の2番目へと向かった。以前この平盤に向かったときは、川水がくるぶしぐらいで簡単にバチャバチャと先に進むことが出来たのだが、その時とはなんだか様子が違う。川水が深いところで膝ぐらいまでもあり、しかも笹濁りで川底が見えにくいのだ。荷物を背負って前に進んだり後ろに下がったり、方向をかえたりして何度か挑戦するも足元を掬われて濡れ鼠になっては大変だと断念せざるを得なかった。転んでも海まで流されてしまう心配はないのだが、「何やってんだ」と皆さんから嘲笑されるのが恐ろしいのだ。

## 名人に学ぶ

しかたがないので、金井氏らが進んでいった鷹ノ巣トンネル裏へと向かった。釣り人は誰もいない。しばらく歩いていくと、遠くから3個のキャップライトの明かりが届いてきた。最初の盤では、釣り人が一人、熱心に準備をしている。その先にある私が以前大釣りして優勝したことのある盤に向かうと、名人会の2人とも盛んに竿を振っていた。私は、その更に奥にある盤に乗った。午後11時には寿都漁港で着替えを済ませたのだが、私が打ったときには、午前0時半を回っていた。隣の盤の2人に負けないようにと、ネットにコマセをいつもより多めに詰めて3本ともゴロ天秤ネット仕掛けで打ち続けた。

まもなく大変良いアタリが出て、竿を煽るとアタリの割りには引き込みが弱く、その主は20cmを少し超えたばかりのハチガラだった。そしてチビゾイ、ハチガラと続けて釣れた後は、しばらくアタリが出なくなった。

金井氏らの様子を見に行く。バツカンを覗かせていただくと、ソイ、ハチガラ、アブラコ、ホッケと大物はいないが規定の10本はそろえたようだ。仕掛けをチラ見したが、一般的なゴロネット仕掛けの用に思えるがその詳細はわからなかった。竿は30号で道糸は張らずに、竿先がピンと立っている。硬い竿でもこのようにすると食い込みに問題なく、アタリも鮮明に出るのだろう。私はカレイやアカハラもと考えて少しでも魚の食い込みがいいようにと25号竿を用意してきた。道糸も竿先が少し曲がるぐらいにきっちり張っていないと気が済まない。カレイがかかって道糸がフケ、竿がピンと伸びたのを合図にしているのだ。



残雪が白く輝く狩場山。この時期にしては雪が多い



溝をはさんだ隣の平盤で竿を出す名人達

自陣に戻って再度エサを付け替えて振り込んだが一向にアタリが出ない。そうこうしている内に空が白々と明けてきた。気分を変えるべくキャップライトを頭から取り外し、竿先ライトを外すべく竿先をみると1本の竿先が折れていることに気が付いた。安竿なのだが、自分の釣力にしっかりとマッチし、購入してから大事にしてきて一度も修理したことがなかったのでとても残念だ。竿先を取り替える金銭的な余裕もなく、バランスが悪くな

るが竿先のガイドだけを新たに取り付けることになるのだろう。

隣の名人会を見ると近投に徹しているらしく、アブラコやソイ、ホッケと釣り上げているのが見える。そして、規定の10本枠から外れた小物はポイポイと海に返している。私のところの磯周りはかなり打ったが魚が出ないので中投と遠投に切り替えた。遠投にアブラコが釣れた。続けて中投の竿にもホッケが来たので期待したが、また、それっきりになってしまった。午前5時を回って、中投で35cmほどのクロガシラが釣れた。私はこれでまだ6匹目なのだ。小物でもいいから何とか後4匹を揃えようと粘るもままならない。そして、竿を盤の左側に移動させた。しかし、ここは高根が幾重にも交錯しているらしく根掛かりが多くて、また元のところに戻らざるを得なかった。それでもって竿上げ間近に似たようなクロガシラを追加して本日の釣りが終了となってしまった。

帰り際に、隣の名人会2人の釣り場に立ち寄った。山崎氏が丁度クロガシラを釣り上げたところだったので、デジカメでパチリとやる。「こんな小さいのでいいのか」というのでバックンを覗かせてもらおうと更に大きいクロガシラが収まっていた。金井氏のバックンも覗かせてもらおうと、型のいいアブラコに35cmほどのソイが何本も収まっていた。そしてバックンの横には、今日のバスの運転手へのお土産としてホッケを丁寧に捌いてビニル袋に詰めてあった。ソイは明け方にバタバタときたという。そのソイをいじっていると偶然、サンマの切り身を吐き出した。金井氏はサンマを使ってはおらず、そのエサの切り方から山崎氏のものだと判明した。そして、まだまだ引き上げる様子はなく、竿3本とも次から次へと打ち続けていた。

## 審査結果

### 審査結果（2魚種身長＋10匹重量）

優 勝	嵐 光博	1802点	(アブラコ428mm+ホッケ 396mm+7780g)	矢 追
準優勝	金井泰樹	1347点	(アブラコ420mm+ホッケ 372mm+5550g)	ワ ス リ
3 位	前野達志	1290点	(アブラコ393mm+ホッケ 380mm+5170g)	軽 白
4 位	中江政美	1283点	(アブラコ397mm+ホッケ 385mm+5010g)	蒲 原
5 位	山崎 栄	1278点	(アブラコ376mm+ホッケ 357mm+5450g)	ワ ス リ
身長優勝	嵐 光博	アブラコ	42.8cm	矢 追

審査は寿都町磯谷の日本海食堂で実施した。優勝者は、得意とする寿都矢追に入った嵐氏であった。矢追は低い平盤での立ち込みとなるが、潮具合も丁度よくアブラコが暗いうちから嵐氏の竿をグイン、グインと伸したのだった。明け方になってホッケが順調に釣れだして、嫁をカジカやハチガラから替える事が出来たのだ。周辺には釣り人が皆無だったそうである。そして鷹ノ巣と一緒にいった金井氏が準優勝、山崎氏が5位入賞となった。しかし、彼らは特別な大物は上がらなかったため、次週の道釣連大会ではここを使わないようである。3位の前野氏は、入念な下見をして、歌島、シマロップ、新甫川にするかど

うかを悩んだが、結局彼が一番得意とする軽臼に入った。ここにも先客がいたが、場所を熟知している前野氏は、違う溝を狙って大アブラコやホッケを揃えてきた。4位の中江氏は原歌漁港の手前にある出岬に下りていったが、魚が薄い為、蒲原平盤に2kmほど歩いてホッケを大漁し、大物のアブラコをも釣り上げたのだ。6位の島氏と11位の谷口氏は寿都漁港に入った。寿都港ではシラス漁が始まっていた。シラスは鮮度が大切なため、漁船が何度も出入港を繰り返すので、釣りにならない状況が続いたが粘ってなんとかアカハラやアブラコを仕留めてきたのだ。岡氏、西川氏、吉井氏は揃って狩場に入った。ハズレの岩、キジルシの岩、ツキの岩が並び、ポン狩場川、ポロ狩場川、小巻川が注ぎ込むゴロタ場は大カジカや大アブラコが潜む名釣り場だが、そこそこの釣りは出来たのだが彼らの腕前には物足りないものだった。例年、この時期の狩場山は中腹まで雪が消えているのだが、裾野まで白銀が輝いている状況だったのだ。少し暖かな日が続いたので大量の雪白水が出たのが災いしたものと思われる。大平川湾洞に入った佐々木氏、本目右の出岬に入った堀内氏は狙いとした溝に先行者がいて不本意な成績に終わった。

さて、第3回大会は太平洋に移しての釣りである。仕掛けを日本海から太平洋仕様に作り変え、大アブラコ、大カジカ、そして大タカノハをゲットしようと今から秘策を練っている。



左から準優勝：金井泰樹、総合・身長優勝：嵐 光博、3位：前野達志